

看護の基礎生物

単位数（時間数）：1 単位（15 時間） 必修/選択：選択 履修年次：1 年次 開講時期：前期

科目責任者（職位・氏名）：非常勤講師・竹原明秀

科目担当者（職位・氏名）：

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢

看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：13

■ 授業概要

看護師は人間という生物を対象としながら職務に従事する。もちろん、看護を行う際、人間を総合的に捉えることが求められるが、生命とは何かを理解しておくことが不可欠である。看護職が関与するのは生物としての人間だけでない。細菌やウイルスはもちろん、生活環境のなかに存在する、さまざまな動植物もまた人間の健康を左右するものである。このように、看護職を志す人にとって、生物学の素養は不可欠である。そこで本科目では、看護学を学ぶ人にとって必要な生物学の基礎知識について講義を行う。

■ 到達目標

看護師となるための専門知識と技術を学ぶために必要な生物学の基本的な知識を修得する。

■ 教育内容

科学的思考の基盤、人間と生活・社会の理解

■ キーワード

細胞、タンパク質、遺伝子、生命現象、血液、ホルモン、生命科学

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	細胞の機能と構造	生命観、細胞の構造、生体の階層構造などについて学び、最後に小テストで確認。	竹原
2	生殖と発生	細胞分裂、受精、個体発生などについて学び、最後に小テストで確認。	竹原
3	遺伝情報とその伝達	遺伝の法則、遺伝子などについて学び、最後に小テストで確認。	竹原
4	個体の調節	消化系、呼吸系、循環系などについて学び、最後に小テストで確認。	竹原
5	神経と運動	神経系、刺激と反応、筋収縮、行動などについて学び、最後に小テストで確認。	竹原
6	ホルモンと生理機能の調節	ホルモン、ホメオスタシスなどについて学び、最後に小テストで確認。	竹原
7	血液と生体防御	血液、リンパ、免疫などについて学び、最後に小テストで確認。	竹原
8	生命現象と生命科学	これまで学んだ内容の振り返りを行い、最後に小テストで確認。	竹原

■ 履修条件

- ① 履修希望者
- ② 高等学校において生物を履修していない者

■ 成績評価方法

期末試験 60%、小テスト 30%、受講態度 10%により評価する。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・授業の最後に小テストを行い、次回の授業時に解説を行う。
- ・期末試験は、試験後に採点基準と解説を学生用ファイルサーバにアップロードする。

■ 教科書

事前にプリントを配布する。

■ 参考書・参考資料等

- ・白戸亮吉、小川由香里、鈴木研太著（2021）『生理学・生化学につながる ていねいな生物学』羊土社
- ・高畑雅一他著（2019）『系統看護学講座 基礎分野 生物学 第10版』医学書院

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

授業1コマにつき、事前・事後学修としてそれぞれ90分程度を充てる。

- ・事前学修では、指定されたプリントの範囲を読み、内容等をノートにまとめ、重要な用語等は調べる。
- ・事後学修では、授業内容が理解できているかをプリントとノートを用いて確認する。

■ 担当教員からのメッセージ

専門的な学修を控え、基礎的な知識を確実に習得する必要があります。そのためにも生物学の基本的原理を十分に理解してください。疑問があれば、手を挙げて質問し、理解を深めてください。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

学務課へお問い合わせください。

■ 担当教員の実務経験の有無

無

■ 担当教員の実務経験

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容